

〔大倭神社註進狀〕養老令曰、孟夏三枝祭（中略）和名佐井草古事記山由理、
〔冠辭考佐〕さきくさのみなか

三枝の事は神祇令に、三枝祭義解云、謂卒川社祭也、以三枝也、また、姓氏錄に、顯宗天皇御世云々、三莖之
草、生於宮庭、採以奉獻、仍負姓三枝部造云々、治部式に、福草瑞草也、朱草別、和名鈔に、葛音娘、和名佐
紀、私記、草枝々相値、葉々相當也と、日本紀の人の名にも、福草と書て、さきくさと訓たり、これらを
以て思ふに、福草なることは明らけし、されど右の式と和名鈔にいふは、他の國の意にて、かしこ
にもこゝにも常ある草にあらず、然れば年ごとの卒川祭イサに用る三枝花サモクサは、さゆり花なるべしと
いへり、さゆりは一本の末に三つの枝ひとしくわかれて、莖の朱に、葉の相當れるてふにも近け
れば、かの福草に擬て用るならんと覺ゆ、略中、其祭も四月にて由利の咲比なれば、かたぐかな
ふべし、これに依ばかの御庭に生けんも由利なりけんか、

〔萬葉集抄七〕さきくさと云事は、假名はおなじけれ共、ことにまたがひていひかへたる事あり、あ
るひは檜の木をさきくさといふは、諸の材木の中に、ことによき木なれば、宮木などにもえらび
もちゐられて、さいはふ木なれば、檜木をさきくさと云、あるひは葛のなかに、とみかづらと云、草
をさきくさと云ともいへり、又草のおひ出て、みつ葉よつ葉なるを、さきくさと云、

〔塵袋三〕一サキクサラバ清輔ガ與義鈔ニ檜木ト釋セルハ實事歟、木ヲクサト云フ心如何、
檜木ト云フ事ハ本説イマダミズ、マサシクハ草ノ名ナリ、葛トカク、又ハ福草トモ、幸草トモ、三枝
トモカケリ、エダモハモ、相ムカヒテ、イク枝ニワカルレドモ、葛トカク、又ハ福草トモ、幸草トモ、三ツ、
三マタニ枝サス物也、サヒハ
カク云フニヤ、又是ヲトビクサト云フ、アラタニオフルトビクサノハナト云フ是也、サキクサラ
バ、トビクサト云フユヘニ、コノトノハムベモトミケリトモヨメル歟、與義鈔ニハ、ヒノ木ニテ家
ヲ作ル物ナレバ、ミツバ、ヨツバニトノヅクリセリト云ヘルヨシ釋セルハ、推量ノ分也、幸草ト